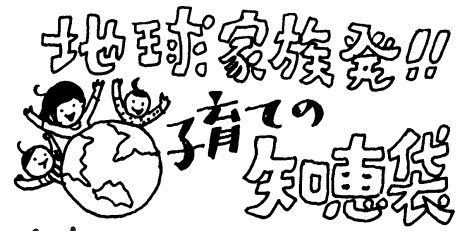


保育園での異文化体験エピソード



その20 言葉の逆境を乗り越えていく力



イラスト・うつろあきこ

「先生の名前、わかんない、友だちの名前も知らない」と、娘の美慧がお風呂の中で話してくれたのは、3歳4か月で保育園に入って3日目のことでした。それまで娘は黙っていましたが、私は、我慢している娘の心情を感じていました。

その後1年半たった今、毎日新しい単語を覚えてくると、父親にその意味を聞いてきます。私たちは中国・瀋陽出身なので、どう伝えていいのか戸惑うこともあるのに、娘はそれを毎日使って覚える努力をしているのです。そんな娘を、本当に敬愛しています。子どもは、自分で成長していくのです」と、この秋に4歳9か月になった美慧ちゃんのお母さんは、しみじみと話されました。

美慧ちゃんは、友だちや大人のしていることをよく見ています。私が話しかけると、じーっと私の目を覗き込むようによく見ます。それは、言葉ではなく、心の情動をキャッチしようと、自分のあらゆる器官の機能をフル活動させているように感じます。

まさに子どもは、この「心で感じとる力」を有しているのではないのでしょうか。言葉を越えたところで、子どもは見ているのだと思います。

(川副孝夫／千葉県市川市・さかえ第二風の谷保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp